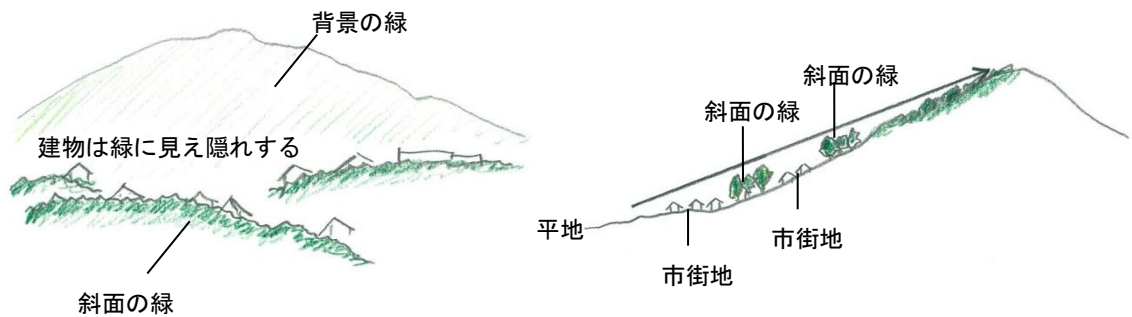


## 【本編の充実イメージ】

## 3 緑に溶け込む建物

【都市】

- 生駒の市街地を大きく捉えると、竜田川と富雄川の流域を中心とする二つの谷筋の斜面において拡大してきました。
- 谷筋の平地から見上げると、斜面に残された樹木が緑の帯となって丘上の市街地を覆い隠し、背景の生駒山や矢田丘陵、西の京丘陵とあいまって、あたかも緑の中に市街地が溶け込んでいるように見えます。この眺めは、緑に包まれたまちとして生駒を印象付けています。



緑の中に溶け込む建物

\* \* \*

○谷の底部から見上げた時に見える斜面林は緑の帯として、たとえ少量であっても大切に  
し、保全します。開発によって損なわれることのないよう、緑化などによりできる限り  
復元します。

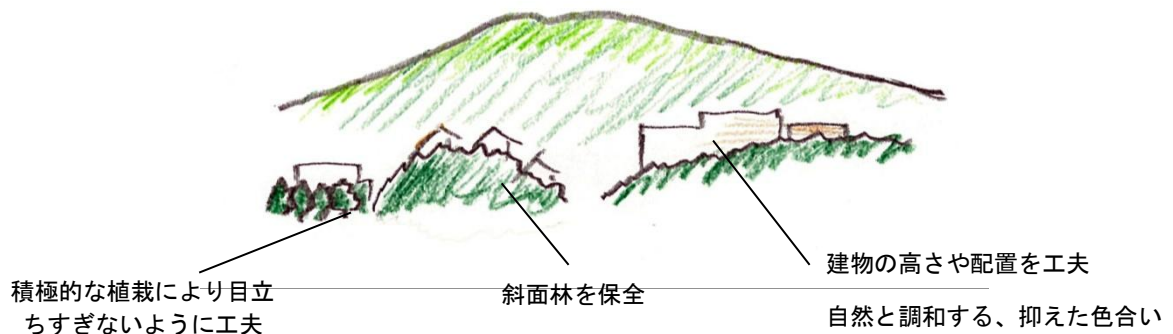
**やってみよう**

- ・敷地のなかで植栽するときは、斜面の谷側にできるだけたくさん樹木を植えたり、  
生け垣にするなど考えましょう。

○緑に溶け込むよう、建物の高さや配置を工夫したり、緑との親和性の高い色彩や材料を  
採用します。また規模の大きな建物の周囲には積極的に植栽します。

**やってみよう**

- ・見晴らしのよい場所は逆に周りからもよく見えます。下から見られていることも意  
識して、緑に包まれた暮らしを楽しみましょう。



**●見え隠れの美学**

緑のなかに溶け込み垣間見える建物は、視点が動くにつれてはっきりと見えたり緑の後ろに隠れたりします。このような状態を「見え隠れ」と言います。また、日本では古来より物陰からちらりと見えたり、薄暗いなかにほのかに見えるところに美を見出す独特の感覚が受け継がれていると言われています。

緑に包まれた生駒のまちには、私たちの心に訴える見え隠れの美学が息づいていると言えるのではないのでしょうか。

## 【デザインガイド編のイメージ】

### 3 緑に溶け込む建物

【都市】

- 斜面の谷側の緑を保全・復元します



斜面の緑を残す



擁壁を緑化する

- 斜面の谷側から見たときの緑視率をできるだけ高くします



緑視率が約 82.6%



緑視率が約 46.7%

- 地形に合わせて建物を配置します



建物のスカイラインを地形と合わせる



斜面の山側に寄せて配置する

●斜面や緑となじむ屋根の形態とします



地形に合わせた屋根の形状



柔らかなスカイライン

●緑との親和性の高い意匠とします



緑に溶け込む色彩



緑が映える色彩



木質系素材を使った外壁



石積みの擁壁